

クローズアップ



会見する植田和男理事長(左)と有岡正樹理事長

がれき処理で提案 PFI協とライフサイクルマネジメント研

東日本大震災の復旧・復興の当面の課題の1つは、膨大ながれき(混合廃棄物)の処理だ。日本PFI・PPP協会(植田和男理事長)と、社会基盤ライフサイクルマネジメント研究会(有岡正樹理事長)は6日、東日本大震災のがれきを早期に処理するため、がれきを流動性のあるソイルモルタルで封じ込めて、現地で造成する堤や丘の基礎として利用することを提案した。併せてこの取

ソイルモルタルで固化した 地元「堤」「丘」の基礎に

り組みを推進する「がれき処理する」ことを提案。ソイルモルタルの原料に、津波の影響で海水をがれきの量によって決め、混在するがれきを「一括」して処理することを実現した。既にこの提案の実現に向けた具体的な検討を進めている市町村もあるという。

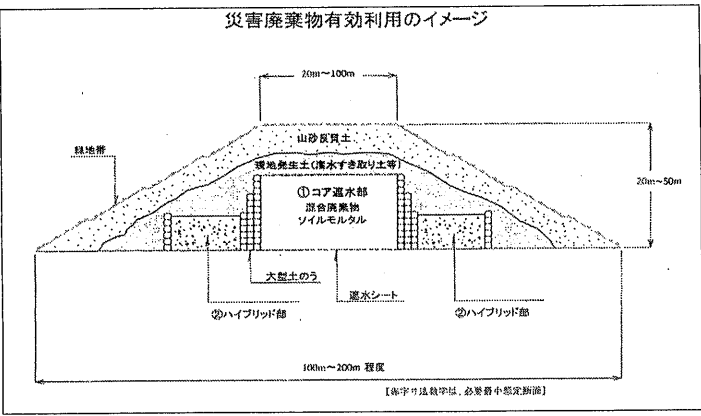
塩害土壌の活用も配慮

がれきを現行法に基づいて処理すると、分別や運搬・処理などに多大な時間と費用がかかる。このため、セメントと水と土を混ぜた「ソイルモルタル」でがれきを固めて処理することを実現。ソイルモルタルの原料に、津波の影響で海水をがれきの量によって決め、混在するがれきを「一括」して処理することを実現した。既にこの提案の実現に向けた具体的な検討を進めている市町村もあるという。

塩害土壌の活用も配慮

がれきを現行法に基づいて処理すると、分別や運搬・処理などに多大な時間と費用がかかる。このため、セメントと水と土を混ぜた「ソイルモルタル」でがれきを固めて処理することを実現。ソイルモルタルの原料に、津波の影響で海水をがれきの量によって決め、混在するがれきを「一括」して処理することを実現した。既にこの提案の実現に向けた具体的な検討を進めている市町村もあるという。

運搬・処理などに多大な時間と費用がかかる。このため、セメントと水と土を混ぜた「ソイルモルタル」でがれきを固めて処理することを実現。ソイルモルタルの原料に、津波の影響で海水をがれきの量によって決め、混在するがれきを「一括」して処理することを実現した。既にこの提案の実現に向けた具体的な検討を進めている市町村もあるという。



を提案。既に具体的な検討を進めている自治体もあるという。さらに、取り組みを財

源面で支援する手法としてPFI方式の活用と「日本復興ファンド」の創設を提案した。PFI方式により、民間資金を活用して行政の財政負担を平準化・軽減できる。併せて、ファンドにより、PFI事業に取り組み復興推進会社(SPC)を資金面で支援する。

同ファンドは、ライフサイクルマネジメント研究会のアドバイスを受けてPFI協会が企画・立案。国内外の銀行・証券会社や、海外のインフラファンドから資金供与を得て組成する。植田理事長は、復興支援に対する国内外の意識の高さなどから、ファンドに対する協力ニーズは高いと見ている。